

2007年(平成19年)5月24日(木曜日)

管路再構築に貢献へ

名称改定し再スタート

全国水道管内 カメラ調査協会 会長に杉戸大作氏

全国水道不断水内視鏡協会の第2回通常総会が21日、神戸市のメリケンパークオリエンタルホテルで開催され、設立後1年間空席となっていた会長に杉戸大作・廃棄物研究財団理事長(元厚生省水道環境部長)を選任するとともに、会の名称も「全国水道管内カメラ調査協会」に改め、不断水内視鏡調査を中心に、より幅広い管内調査に対応し管内調査技術の普及拡大を目指すことになった。



第2回通常総会



杉戸会長

総会では、冒頭濱田康義(ツブアンドビルドからリフ副会長)が「時代はスクラ・オーム、リニューアルに変わった。水道もよりきめ細かいメンテナンスが必要である。内視鏡管内調査は、水道管路の維持管理に寄与するものであり、大きな可能性を秘めている。皆さんの協力のもと普及拡大を目指したい」と挨拶。来賓祝辞では、地元神戸市水道局の安藤伸雄・参

事、堀内厚生・元名古屋市収入役・水道事業管理者が、水道管路の適正な管理・更新に向け管内調査の重要性を指摘し、管内調査のさらなる普及と技術の向上、応用範囲の拡大などに期待を寄せた。

特別会員として新入会した杉戸大作氏、小泉明・首都大学東京大学院教授及び顧問に就任した小林康彦・日本環境衛生センター理事長(元厚生省水道環境部長)紹介に続いて議事に入り、18年度事業及び決算報告、協会の名称変更などを中心とした会則・細則の改定案、19年度事業計画案、同予算案、理事選任(杉戸特別会員及び大成機工)案などを審議し、それぞれ原案通り承認した。

技術講習会、規約の検討、技術的改良、New Epoch第1グループへの参加などの活動に取り組むことになった。

ここで、空白になっていた会長を選任するため臨時の理事会が召集され、理事会において全会一致で杉戸理事が会長に選任されたことが報告された。

杉戸会長は「水道は再構築の時代である。管内調査はその重要な役割を担う意義のある仕事であり、水道界の中でも数少ない成長分野である。組織の全国的な拡大・強化、事業体の理解の拡大、カメラそのものの改善、海外への展開など課題もあるが、皆さんとともに一歩一歩着実に前進してまいりたい」と就任の決意を語った。

なお、総会に先立ち新入会員の紹介が行なわれ、正会員として入会したディー・エス・サテ、カンスイ、エムアイ産業、大成機工の4社が紹介された。

画では、管内カメラを通じて水道界に貢献するため広報、事業、総務、技術の各委員会を通じてPR活動、